

フットケア・足病医療の新時代

健康寿命を延伸するためには、健康な足を守り、自分自身の足で歩ける歩行機能を維持することが極めて重要です。欧米では 100 年前から、足の健康を守る専門医として足病医（podiatrist）が存在し、足病学（podiatry）が通常の医療の一部として定着しています。しかし、日本ではこれらの専門職が存在しないため、関連診療科である形成外科、整形外科、外科、血管外科、循環器内科、皮膚科や関連職種である理学療法士、義肢装具士、看護師などの多くの医療従事者によるチーム医療や横断的な診療が必要不可欠です。

わが国では、食生活や生活習慣の変化に伴い、動脈硬化や糖尿病の患者が増加の一途を辿っています。それに伴って、合併症の一つである足潰瘍や壊疽も増加の傾向を示しています。これらの患者が下肢切断に至った場合の 5 年生存率は約 30% と低く、生命予後の悪化も大きな課題となっています。切断を阻止するためには、早期からのフットケアが非常に重要です。しかし、日本では、「足が痛い」と感じたとしても、原因がわからない段階でどの診療科を受診すればよいのかは患者自身で考え、受診先を選択しなければなりません。これらのことが原因で、足の症状が適切に診断されず、治療がされずに放置される患者が多く存在することが想像されます。

このような現状を改善するため、わが国においても足病医療に精通した医師が一人でも多く存在することが、多くの足病患者を救うことにつながると考えています。本特集では、フットケアと足病医療を身近な医療として多くの医療従事者に理解・実践していただくために必要な知識を集結しました。本特集では、足の診療に携わる様々な専門分野の先生方にご執筆いただきました。本特集を通じて、一人でも多くの医療従事者にフットケアと足病医療を知っていただき、足病患者の早期発見・診断・治療に寄与していただきたいと願っています。特に、早期発見と診断の重要性を強調し、足病の初期症状を正確に把握し、適切な診断を迅速に行うための方法論を紹介しています。また、足部変形、足部の症状に対するアプローチや、足潰瘍や壊疽の治療に用いられる最新の技術や治療法なども紹介しています。執筆者はフットケアと足病医療の最前線で診療されているエキスパートの先生方であり、本特集を介して本分野の最新の知見を知っていただけますと幸いです。

（田中里佳）